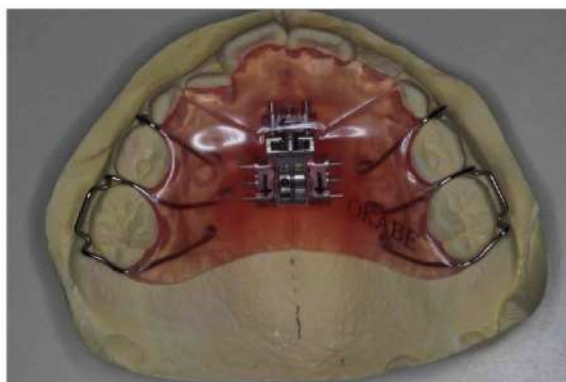


【症例1】7歳 反対咬合(受け口)



●反対咬合治療のポイント

反対咬合は早期の治療が予後に大きく影響します。

人間の顎の成長は 上顎と下顎の成長時期に違いがある ことを考慮します。